

# PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 01-233966

(43)Date of publication of application : 19.09.1989

(51)Int.CI. H04N 1/44  
H04L 9/00

(21)Application number : 63-060943

(71)Applicant : FUJITSU LTD

(22)Date of filing : 15.03.1988

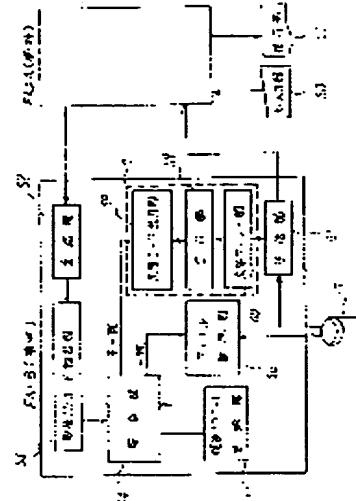
(72)Inventor : HASEGAWA KENICHI  
TAKAOKA RIE

## (54) CONFIDENTIAL POLLING ERROR NOTIFICATION SYSTEM

### (57)Abstract:

**PURPOSE:** To avoid the operator to execute the same mistake again by sending a message to a caller facsimile equipment when a confidential ID code sent from the caller facsimile equipment is not coincident with the confidential ID code stored in the called facsimile equipment.

**CONSTITUTION:** When no code coincident with the sent confidential ID code is registered, that is, when an erroneous confidential ID code is sent, the result of collation by a collation section 54 shows dissidence. In this case, a character code is stored in advance by an output section 58. A character code corresponding to the message representing 'confidential ID is mismatch' is outputted sequentially and each character code is sent sequentially to a CG section 59. The character generator section 59 uses the code to generate a character font, and the character font section 60 stores tentatively the character font data. Thus, the character font data generated and stored in this way is sent from a transmission section 61 to a FAXA and printed out by a print section 51.



### LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

⑥ 日本国特許庁 (JP)

⑦ 特許出願公開

## ⑧ 公開特許公報 (A) 平1-233966

⑨ Int. Cl.

H 04 N 1/44  
H 04 L 9/00

識別記号

序内整理番号

⑩ 公開 平成1年(1989)9月19日

6940-5C  
A-7240-5K

審査請求 未請求 請求項の数: (全6頁)

⑪ 発明の名称 親族ボーリング誤り通知方式

⑫ 特願 昭63-60943

⑬ 出願 昭63(1988)3月15日

⑭ 発明者 長谷川 賢一 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社  
内⑮ 発明者 高橋 理恵 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地 富士通株式会社  
内

⑯ 出願人 富士通株式会社 神奈川県川崎市中原区上小田中1015番地

⑰ 代理人 弁理士 山谷 啓美

## 明細書

## 3. 発明の詳細な説明

## 〔目次〕

## 概要

## 産業上の利用分野

従来の技術(第4図、第5図、第6図)

発明が解決しようとする課題

課題を解決するための手段(第1図)

## 作用

実施例(第2図、第3図)

## 発明の効果

## 〔概要〕

親族ボーリング誤り通知方式に關し、

発呼側から送信された親族IDコードが被呼側の保持している親族IDコードと一致しないとき、発呼側にIDミスであることを送信してこれを発呼側ファクシミリに出力することを目的とし、

受信した親族IDを照合し、自ファクシミリの保持している親族IDコードと一致しないとき発呼側に保持データを出力しない親族ボーリング方式にお

1. 発明の名称 親族ボーリング誤り通知方式

## 2. 特許請求の範囲

受信した親族IDを照合し、自ファクシミリの保持している親族IDコードと一致しないとき発呼側に保持データを出力しない親族ボーリング方式において、

自ファクシミリで取扱われる親族IDコードを保持する親族IDコード登録手段(4)と、

送信されたIDがミスではないかという内容のメッセージを保持してその文字フォントデータを出力する文字フォントデータ作成手段(7)を具備し、

発呼側ファクシミリから伝播された親族IDコードが被呼側ファクシミリで保持する親族IDコードと一致しないとき上記メッセージを発呼側ファクシミリに送信するようにしたことを特徴とする親族ボーリング誤り通知方式。

## 特開平1-233966(2)

いて、自ファクシミリで取扱われる親戻IDコードを保持する親戻IDコード登録手段と、送信されたIDがミスではないかという内容のメッセージを保持してその文字フォントデータを出力する文字フォントデータ作成手段を具備し、発呼側ファクシミリから伝達された親戻IDコードが接続用ファクシミリで保持する親戻IDコードと一致しないとき上記メッセージを発呼側ファクシミリに送信するように構成する。

## 〔並案上の利用分野〕

本発明は、ファクシミリ装置の親戻ボーリング通信に用いる親戻ボーリング調り通知方式に係り、ID(識別番号)が不一致のときに親戻IDが違うことを発呼側に通知するようにしたものに関する。

## 〔従来の技術〕

従来、ファクシミリ装置において、IDコードあるいはパスワード等の特殊コードを用いて親戻

(実験用機能)、C10(発呼端末識別)、DT C(ディジタル送信命令)信号を送出する。

次にFAXBは受信した信号NSCのファクシミリ情報フィールドの特定エリアのIDコード等を読み出して予め登録されている親戻IDコード等と照合し、一致していればTSI(送信局識別)、NS8(非標準機能設定)、TCF(トレーニングチェック)信号を送出してCPR(受信準備確認)信号の受信を待って信号PIXを送出する。

PIX信号の送出が終ると、手順終了信号BO Pを送信し、続いてFAXAよりメッセージ確認信号MCFを送出し、さらに、FAXBでMCP信号を受けて切断命令信号DCNを送出して通信回線を切断し通話終了する。

第5図は従来の親戻ボーリング通信方式を説明するための図、第6図は第5図の被呼側ファクシミリFAXBにかかるフローチャートを示した図である。

第5図において、FAXAは発呼側のファクシミリ、FAXBは被呼側のファクシミリである。

ボーリング通信を行なうことが知られていた(例えば、特開昭61-238137号公報参照)。このような従来の親戻ボーリング通信方式は次のようになっていた。

第4図は親戻ボーリング受信のプロトコルを示したものであり、発呼側ファクシミリFAXAでは、送出する信号の内、CCITT勧告T39でファクシミリ情報フィールドの内容まで規定されていない非標準信号NSC(非標準機能命令)を利用し、そのファクシミリ情報フィールドに割り当てられた特定エリアに組合すべきIDコードまたはパスワードの情報を挿入して送出する。

また、被呼側ファクシミリFAXBは、PAX Aのダイヤル信号、すなわちリング信号で呼び出されると、自動着信装置が該信号を検出し、電話回線をファクシミリ側に接続してCED(被呼局識別(トーナル))、NSE、CSI(被呼局識別(バイナリ))、DIS(ディジタル識別)信号を送出する。

FAXAでは、これらの信号を受信し、NSC

第4図に通信プロトコルを示したように、FAXAでオペレータが親戻ID、冠先、時刻を設定し、設定した時刻になると、FAXBへ発呼を行なう。

FAXBではFAXAからNSC信号を受けると、NSC信号内にある親戻IDと一致するファイル、例えば親戻IDコードをID<sub>x</sub>とすると、これに対応したファイルKを探し出し、FAXAへ送信する。

この時、一致する親戻ID、すなわちID<sub>x</sub>がなかった場合は、FAXBは通信回線を切断してしまう。

## 〔発明が解決しようとする課題〕

前記のような従来の親戻ボーリング通信方式においては、FAXBで親戻IDが正しくないということがわからず、通信切断となってしまう。このため、FAXAでは、オペレータが再びFAXBに対して同じ親戻ボーリング受信を依頼してしまうことになる。

特開平1-233966(3)

結局、親機 ID コードの入力ミス等で正しくない親機 ID コードが送信された場合に、FAXA 領のオペレータにはミスであることがわからないため、何回依頼しても通信切断を繰返す結果となる欠点があった。

本発明は、このような従来の欠点を解決するためになされたものであり、親機 ID が正しくなかった場合でも、オペレータが再度同じミスをおかなくすることを目的としたものである。

#### (課題を解決するための手段)

前記の目的を達成するため、本発明は次のようになしたものである。

第 1 図(内側)は本発明の原理を示した図であり、(a)はブロック図、(b)はフローチャートである。

今、発信側のファクシミリ FAXA に対してオペレータがキー入力部 8 より親機 ID コードを入力する。この親機 ID コードの記入された信号を被呼側のファクシミリ FAXB へ送信すると、この信号は受信部 1 で受信された後、親機 ID コード

が正しくないことを知らせることができる。

#### (作用)

このように、本発明によれば、親機 ID コードが正しくない場合に、その旨のデータを送り返して印刷出力するので、オペレータが親機 ID コードの入力を誤ったことが一目で判明する。

したがって、再度誤った親機 ID コードによる操作を繰返すことがない。

#### (実施例)

以下、本発明の一実施例を第 2 図、第 3 図に基づいて説明する。第 2 図及び第 3 図は、本発明の一実施例である親機ボーリング誤り通知方式を示した図であり、第 2 図は全体の構成を示すブロック図、第 3 図はフローチャートである。

第 2 図において、FAXA は発信側のファクシミリ、FAXB は被呼側のファクシミリである。FAXA には親機 ID コードを入力するためのキ

ド抽出部 2 で親機 ID コードを抽出する。

抽出された親機 ID コードは照合部 3 に送られ、親機 ID コード登録部 4 内をサーチして同一の親機 ID コードがあるかどうかを照合する。

その結果、送られてきた親機 ID コードと一致するものがあった場合には該当する親機 ID コードに対応したファイル部 5 内のファイルデータを取出し、送信部 6 より FAXA に対して送信する。FAXA では送られてきたファイルデータをファクシミリ出力部 9 でプリントする。

また、FAXA より送られてきた親機 ID コードと一致するものがない場合には、親機 ID コードが正しくないので、文字フォントデータ作成部 7 で、例えば「親機 ID は違います」という文字フォントデータを作成し、送信部 6 から FAXA に対してデータを送信する。

FAXA ではこのデータを受信すると、ファクシミリ出力部 9 によって前記のような「親機 ID コードは違います」と印刷出力する。

これにより、オペレータに対して、入力した親

機 ID コードが正しくないとを知らせることができる。

また FAXB には、受信部 52、親機 ID コード抽出部 53、FAXA から送られてきた親機 ID コードと一致するものがあるかどうかを照合するための照合部 54、親機 ID コードを予め登録しておいたための親機 ID コード登録部 55、ファイル制御部 56、親機 ID コードと対応するようにしてデータが保存されているファイル部 57、文字コード出力部 58、CG(キャラクタ・ジェネレータ)部 59、文字フォントデータが一時保持されている文字フォント部 60、第 1 部 61 などが設けられている。

今、FAXA のキー入力部 50 から親機 ID コードを入力し、NSC(非標準誤り命令)信号のファクシミリ情報フィールドに割り当てられた特定エリアに前記親機 ID コードを入れて FAXB へ送信する。

この NSC 信号は FAXB の受信部 52 で受信された後、親機 ID コード抽出部 53 へ送られて

特開平1-233966 (4)

親屋 IDコードが抽出される。

抽出された親屋 IDコードは組合部 54 へ送られ、親屋 IDコード登録部 55 に一致する親屋 IDコードが登録されているかどうかが照合される。その結果、一致する親屋 IDコードがある場合には、その信号をファイル別御部 56 へ送りファイル 57 内から該当するファイルデータを取り出して送信部 61 から FAXA へファイルデータを送信する。

FAXA では、送られてきたファイルデータを印刷部 51 でプリントする。

次に、送られてきた親屋 IDコードと一致するものが登録されていない場合、すなわち既に親屋 IDコードが送られてきた場合には、組合部 54 での場合が不一致となる。

この場合には、文字コード出力部 58 であらかじめ保持している「親屋 IDは送います」というメッセージに対応する文字コードを依次出力させ、各文字コードを順次 CG 部 59 へ送る。

CG 部 59 では、このコードを用いてキャラク

タのフォントを発生させ、文字フォント部 60 で文字フォントデータを一時保持する。

このようにして作成、保持された文字フォントデータは、送信部 61 から FAXA へ送られた後、印刷部 51 で印刷する。

と/or、FAXA から預った親屋 IDコードを FAXB へ送信した場合には、FAXB から「親屋 IDは送います」という文字フォントデータが返送されて来た後、FAXA のファクシミリ出力部 51 で印刷されるとなる。FAXA 側のオペレータはこの印字出力をみて、IDミスであることがわかるので、キー入力部 53 により正しい ID を入力し、これにより再び親屋ボーリングを行なうことができる。

なお IDミスのときのメッセージは勿論上記の文書に記載されるものではなく、「IDミスであることを示すものであればよい。またこのメッセージは印刷出力に限らず、表示部に表示してオペレータに伝達することもできるが、オペレータがファクシミリより離れている場合もあるので印刷出力

の方が好ましい。

#### 〔 説明の効果 〕

以上説明したように、本発明によれば、次のような効果がある。

(1) 親屋ボーリング通信において、被呼側のファクシミリ内のファイルに発呼側ファクシミリの指定する親屋 ID ファイルが存在しなかった場合、被呼側ファクシミリは発呼側ファクシミリへ「親屋 IDは送います」というメッセージを送信するから、発呼側のオペレータは親屋 ID が間違っていることがわかる。

(2) 親屋 ID が間違っていた場合、オペレータが直ちに気付くため、再度同じミスをおかさなくなる。

#### 4. 図面の簡単な説明

第 1 図は本発明の原理説明図。

第 2 図は本発明の一実施例構成図。

第 3 図は本発明の動作を説明するフローチャート。

ト。

第 4 図はファクシミリのブロック図説明図。

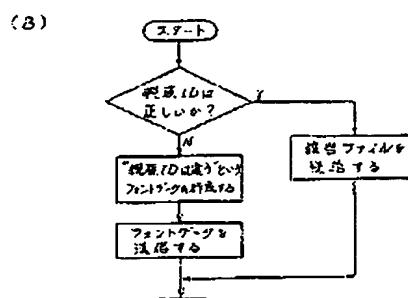
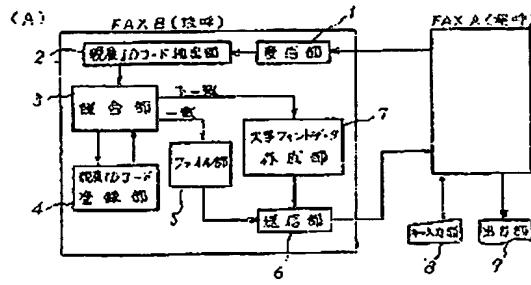
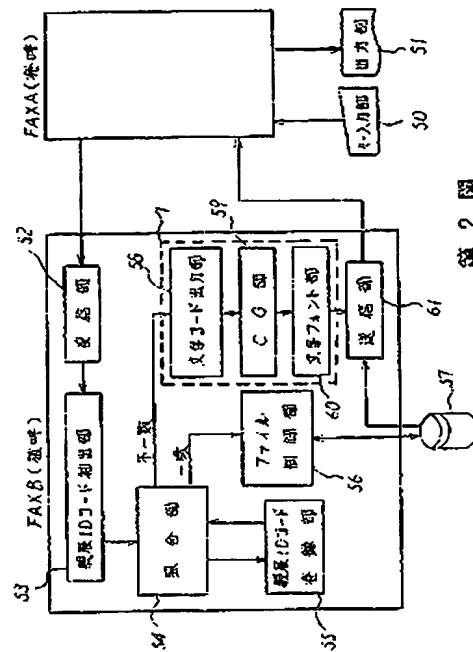
第 5 図は従来の親屋ボーリング通信方式説明図。

第 6 図は従来の親屋ボーリングの動作説明図である。

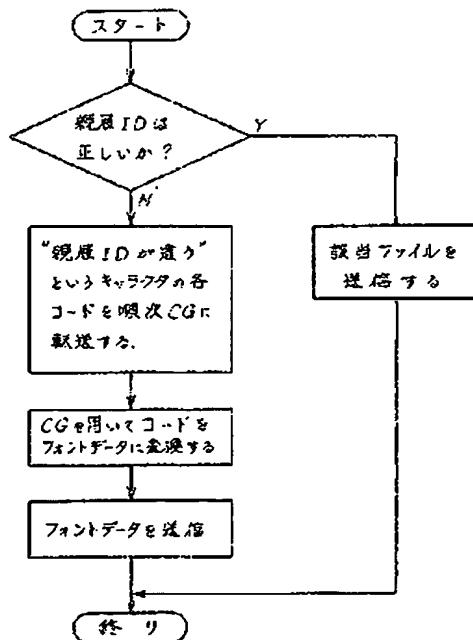
- 1. 52 … 受信部,
- 2. 53 … 親屋 IDコード抽出部,
- 3. 54 … 組合部,
- 4. 55 … 親屋 IDコード登録部,
- 5. 57 … ファイル部,
- 6. 61 … 送信部,
- 7 … 文字フォントデータ作成部,
- 8. 50 … キー入力部,
- 9. 51 … ファクシミリ出力部,
- 56 … ファイル別御部,
- 58 … 文字コード出力部,
- 59 … CG (キャラクタジェネレータ) 部,
- 60 … 文字フォント部。

特許出願人 吉士道株式会社  
代理人 井理士 山谷皓栄

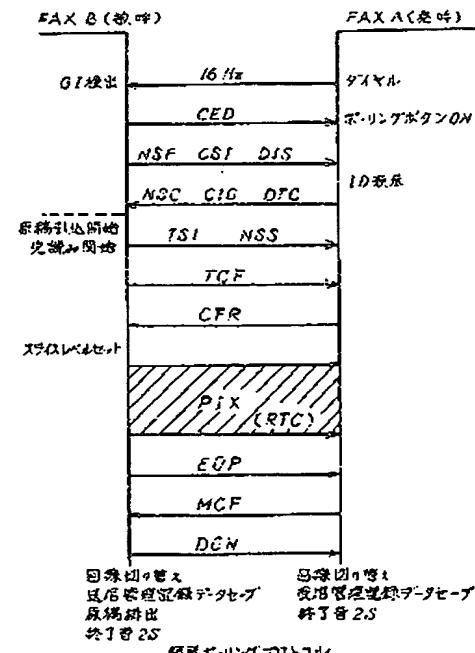
特開平1-233966 (5)

本発明の原理図  
第1図

第2図

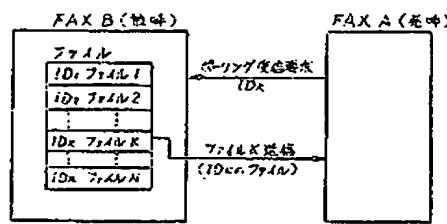


第3図

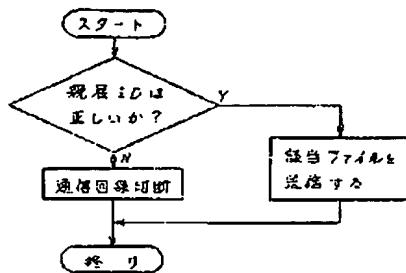


第4図

特許平1-233966(6)



従来の親機ペーリング説明図  
第 5 図



従来の親機説明図  
第 6 図